

◆卒業・修了者計6507名◆ 最高齢94歳、放送大学'24年度学位記授与式

放送大学は3月22日、2024(令和6)年度放送大学学位記授与式を東京都新宿区のベルサール高田馬場で開催した。今年度は、教養学部で6302名(最高齢94歳)、大学院修士課程で202名(最高齢82歳)、博士後期課程で4名(最高齢76歳)、計6507名が卒業・修了した。

はじめに、岩永雅也学長から教養学部の総代に卒業証書・学位記が、大学院修士課程、博士後期課程の各総代に学位記が授与された。続いて、岩永学長が式辞を述べ「社会、国際情勢等を広く見渡すと予想もしなかった事態が進んでいる。神から開けてはならぬと言われた箱を好奇心いっぱいのパンドラが開け、あらゆる災厄が世に出してしまった。そんな状況がこの時代かもしれない。しかしパンドラのエピソードには悲劇的でない結末も付されている。箱の中に「私はまだここにいます」と、希望が残っていたというものだ。学び



岩永学長



武部文科副大臣



計6507名の卒業生・修了生を祝った式典(ベルサール高田馬場)

の先には必ず希望がある。今日、放送大学の学習によって多くの知恵を獲得された皆様があ揃っている。豊かな好奇心を持った現代版パンドラの面々であることは間違いなく、ここからさらに多くの希望を見つめる旅に出発して頂きたい」と卒業生・修了生を激励した。次に、来賓の武部新文部科学副大臣、赤阪晋介総務省大臣官房審議官、放送大学同窓会連合会の北野敏夫副会長から祝辞が述べられた後、各総代から謝辞が述べられた。学長表彰では、名誉学生として155名、教育功績賞として谷口義明特任教授、山室恭子特任教授、佐藤仁美准教授が表彰された。また、放送大学チャレンジ募金に対して多大な寄付を行った3名に高橋道合理事長から感謝状が贈呈された。同募金は、放送大学がより開かれた高等教育の未来の実現に向けたチャレンジを実行するため、創立40周年を迎えた23年度に開始されたもの。



岩永学長(左)が学位記を授与



謝辞を述べる教養学部・卒業生総代